

2025 AUTOBACS SUPER GT ROUND6 SUGO GT 300KM RACE

NISSAN MECHANIC CHALLENGE

Race Report

担当 栃木校

令和7年9月20日(土)、21日(日)



この活動は下記のパートナー企業様に支えられています。



日産神奈川 日産東京 兵庫日産 日産大阪 埼玉日産 日産プリンス福島 日産プリンス埼玉 岐阜日産 愛知日産 日産プリンス名古屋 京都日産 愛媛日産 鹿児島日産
帯広日産 日産青森 日産サテリオ弘前 日産プリンス宮城 秋田日産 日産プリンス秋田 日産サテリオ秋田 福島日産 栃木日産 日産プリンス栃木 日産プリンス群馬 長野日産 日産サテリオ埼玉 日産自動車販売 千葉日産
日産プリンス千葉 三重日産 日産プリンス三重 静岡日産 日産プリンス静岡 浜松日産 三河日産 日産プリンス兵庫 和歌山日産 滋賀日産 日産サテリオ岡山 日産プリンス広島 日産プリンス山口 香川日産 長崎日産
日産福岡 日産サテリオ佐賀 日産プリンス大分 日産プリンス熊本 熊本日産 日産プリンス長崎 加川日産 岩手日産 日産プリンス岩手 日産サテリオ新潟 甲斐日産 松本日産 日産サテリオ千葉 日産サテリオ浦南
富山日産 日産サテリオ富山 石川日産 福井日産 奈良日産 日産プリンス和歌山 日産サテリオ福山 岡山日産 宮崎日産 日産サテリオ宮崎

【GT300クラス レース結果】

令和7年9月20日(土):予選日

天気:曇り / 路面状態:ドライ

朝から雲が広がり、天気予報では雨も予想されたが当日は雨に降られることなく路面状況もドライのまま14時5分に予選が開始された。Q1はオリベイラ選手が担当。短い時間のなかでタイムを上げていき、3週目に1分17秒873秒を記録。Q1、Aグループの中で2番手の位置につけ Q2進出が決まった。

Q2、平手選手が担当。決勝レースを少しでも上の順位でスタートを切るために力走を見せ、1分17秒803秒を記録し、クラス7番手につけた。



令和7年9月21日(日):決勝日

天候:曇り/ 路面状態:ドライ

朝から青空が広がった決勝日。8月に比べて過ごしやすい気候になったこともあって17,000人もの観客がスポーツランド SUGO に訪れた。決勝開始までに雨がパラパラ降ることもあったが路面状況が変わるほどではなく、13時45分に決勝レースのスタートが切られた。スタートドライバーは平手選手が務め、7番手スタートから着実に順位を上げていき、29周目には2位に躍り出た。その後、ピットイ

ンでドライバー交代、タイヤ交換、燃料補給をして5番手でレースに復帰。途中で赤旗中断があり16時にレース再開。残り時間30分のタイムレースとなった。交代したオリベyra選手も短い時間のレースのなかで力走を見せ、トップを追い続け、2番手でチェッカーを受けた。

チェッカーフラッグを受けた瞬間に現場は歓喜の渦に包まれ、応援していた学生からはこんな声が上がった。「僕たちがサポートしたマシンが表彰台の真ん中に近づいた、その事実言葉が出ませんでした。シリーズチャンピオンの可能性が現実になって、僕たち学生もチームの一員として貢献できている実感があります。最終戦では、僕たちの応援で絶対にチャンピオンを掴み取ります！」。

56号車は今年の開幕戦の岡山以来、今シーズン2度目の表彰台獲得となり、ドライバーランキングは6位から2位へ、チームランキングは5位から3位へ順位を上げ、チャンピオン獲得へさらに1歩近づいた。

【近藤真彦監督インタビュー】



Q1,レーシングカーの走行では様々なデータがとれると思いますが、監督はドライバーからのフィードバックとエンジニアからのデータをどのくらいの割合で判断していますか？

A,今の日本のレースではドライバーからのフィードバックをエンジニアが聞いて、それにエンジニアが反応して車をセッティングしていくんだけど、もう少し上のクラスになるとデータだけで車をセッティングして、このデータ通りに走りなさいと言われる時代になってきているんですよ。そしてドライバーはそのデータを1番活かす走り方をしないといけなくなってきた、このデータで走れない人はデータどおりに走れる人に敵わないよって話になってきちゃうんだよね。なのでこれからは今までみたいにドライバーからのフィードバックよりも、データを重視する時代になってきちゃうかな。

Q2,今回の舞台、菅生ではよく魔物が住むなどといわれています。ドライバーから見ると難しいコースでのレースだと感じと思いますが、監督から見た菅生でのレースの難しさは何ですか。

A,まず、鈴鹿や富士と違ってここはグラベルが狭いからワンミスが許されない。少しミスしたらすぐにガードレールが来る。でもそのわりに高速コーナーが多いからこのコーナーもここは気が抜けないコースだよ。菅生は特に1分10秒〜20秒くらいで1周できちゃうコースを、4 5 台も走るんだから魔物どころじゃないです。そういう意味では見ている人は面白いかもしれない。ただチームとしてもドライバーとしてもやっている方が大変。あとはこのコースは山間部なので、天気予報がなかなか当たってくれなかったりするね。そこも魔物なんだよね。チームによっては複数の天気予報士さんと契約しているところもあるし、なかには風向きによって1Km 先にチームのスタッフを行かせるところもある。ヨーロッパのレースだとももちろんデータもあるけど、ニュルミみたいな広いコースもあったりするからスタッフを向かわせてその情報を使って用意をしたりしている。ちょっとアナログな部分も山には必要かなと。今日この後みんなで行ってきてくれない(笑)?今回のレースは日産勢のピットは1コーナーよりなんだけどこれはとても有利。ピットは常に何があっても対応できるようにしているんだけど、もしトラブルでマシンがピットに飛び込んできてもピットロードを走ってる時間で準備ができるから。だからこれを生かさないといけない。それにコースインした時も1番最後の車がピットアウトする前に1周してこれる。この1周得するのはやっぱりすごいことなんだよ。だから今回、日産勢はよそのチームよりも優位なところがあるかな。

Q3,先月末に GT-R(R35型)が生産終了となりました。R35がなくなって監督はどう感じていますか？

A,なにか期待しちゃうよね日産には。そう言いながらまた近い将来新型の R36 という声が聞こえてくるんじゃないかなっていう期待はしちゃう。それはいつ出てくるかわからないけど、気持ちの中では GT-R は絶対になくならないと思っているんで。だから寂しさもあるけど、なんか GT-R ってスカイライン GT-R のころから色んな歴史があったじゃない？その歴史のなかで35ができたんだから36もどこかで声が聞こえてくればいいな。俺が生きているうちに出してほしい(笑)。

Q4,去年の茂木戦でのインタビューから始まった「マツチのマーチがあなたの街にリターンマツチ」、私たち栃木校ではエンジンとミッション降ろしをさせていただきました。マーチが完成したら行ってみたい場所がありますか？

A,そうだなあ。富士スピードウェイに行ってみたいな。なぜかマーチは1番初めに富士スピードウェイってイメージが強いんだよね。なんか富士スピードウェイに行くと、富士のまわりに行くと、高速乗って帰ってくるのが良いなって思ってる。

横浜とかおしゃれな所に行きたいとかは無いんだよね。マーチの完成がすごく楽しみです。

【56号車ドライバーインタビュー】



Q1,テレメトリーデータで最も注目する指標、数値は何ですか？

平手選手

A,自分が走ったデータとチームメイトの速いタイムのロガーを重ねてみて、見るポイントとしては車速やブレーキングポイントなどがあるのですが、車速だとコーナーの入り口で負けているのか、出口で負けているのか、トップスピードで負けているのかというのを見て、ブレーキの量やアクセルを入れる量を見ています。どこがっていうと全部になるんだけど、1番はまず車速を見ますね。

金丸選手

A,長い距離のレースだとタイヤの内圧やガソリンを使っている量を見て、次の車にどれくらいタイヤのエアを入れるかなどを決めています。

オリベira選手

A, いい質問だね。でも僕は注意してデータを見ることはないよ(笑)。何か違和感を感じたら確認している。自信がなかったら見るけど普段は見ないよ。僕がどのような運転をしたくてどのように車が動くかエンジニアと共有していて、データを見る時は何か気になることがある時だけで、必要以上に気にしてないよ。こんなにデータを見ないのは僕くらいかもね。

Q2, コースの舗装が変わった印象は？

平手選手

A, 去年と比べて凹凸がだいぶ少なくなったかなと思うんですけど、今年の冬に張り替えた割にはあまりグリップしないのかなという印象としてあるかなって思います。

オリベira選手

A, 車の動きがわずかに変化したね。以前よりも路面が平らになって、特に昨年までは最終コーナーで大きく跳ねたりしたけど、車が路面と当たるのがなくなった。フィーリングが変わったから明日のロングランが楽しみだね。

Q3, 先月末に R35 が生産終了となりました。R35 がなくなってどう感じていますか。

平手選手

A, 僕は R35 の前期モデルに乗っているんですけど、R35 の初期型がラインオンして18年くらい経って、R35 がラインオフして新車で買えなくなるというのは GT-

R のひとつの区切りでもあったので正直残念なニュースではあるんですけど、それと同時に新しい GT-R が出てくるんじゃないかという期待感もあるので、1つの時代が終わったっていう感じがします。

金丸選手

A,海外でも R35 はとても人気があった車だと思うし、惜しいと思っている人が僕の知り合いにもたくさんいて、それで今回一旦区切りになったのは今後もっと価値が上がっていくのかなと思いますし、新しいモデルが出てこないというので結構寂しいというのもあります。

オリベira選手

A,近年の自動車業界で日本を代表するレベルの高い性能、世界中のみんなが GT-R を知っている。僕は日産と繋がって長い間レースをできてラッキーだった。いつだったかニスモから2008年か2009年に R35を借りて運転することができたよ。なくなるのはやっぱり寂しいね。

Q4,最近、魔物の仕業だと思った出来事は何かありましたか？

平手選手

A,魔物の仕業だと思ったことか～。そうだな～。起きていない人には起きていないですからね(笑)。やっぱりコースの幅が狭いのと、山あいであって天候が変わりやすいので、この時期にレースをすると秋雨とか前線とかの影響で、とにかく雨がらみが多かったりするのが菅生ですかね。それが全部重なるというんなことが起きるから魔物ってよく言われるんですけど、でもこれってどこのサーキットでもあり得ることで、ただこの小さいコースの中に500も300も入り乱れているのでそういうハプニングが

起きやすいというだけなので、まあ、魔物を味方につけた人が勝つっていうので、魔物が出たらビシッとやっつけばいいんじゃないですか(笑)?ビシッとね(笑)。

金丸選手

A, 菅生の魔物は今のところ出会ったことないんですけど、個人的なニュースでは乗っていた車がオイルの問題で代車に変わったんですよ。でもそれに乗ったらまさかの後ろのスピーカーもやられてて…。もう俺が魔物なんじゃないかって(笑)。

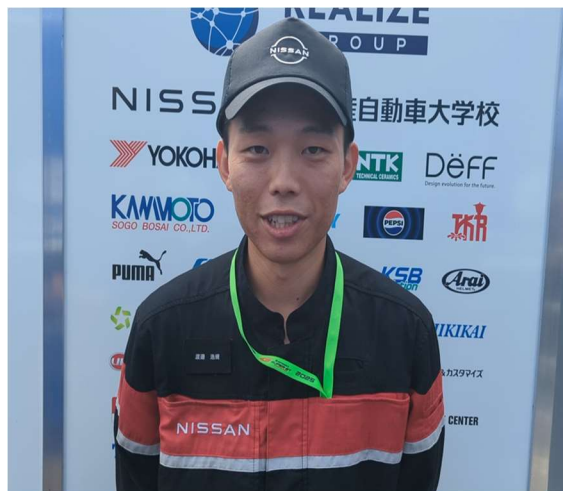
オリベira選手

A, 菅生は伝統的なサーキットで、全長が短く、スペースが十分になくて追い抜きの機会が1コーナーとバックストレートくらいしかない。SUPERGT のレースは台数も多く、マシントラブルがなくて運転のミスもなくすことの両方が要求される。複数の要素が含まれているから毎レース楽しみにしているよ。F3の頃からたくさんの思い出があるし、本当に楽しんでいるよ。魔物と共にタフなレースになるだろうね。

【日産販売店 TS インタビュー】

日産プリンス宮城販売株式会社

渡邊 浩規さん



Q,今回日産メカニックチャレンジに参加して印象に残ったことは何ですか？

A,1番印象に残っているのは、速さのなかでも安全性を確保しているところです。短い時間のなかで作業をしなければならない状況でも、安全性を確保することで落ち着いて作業ができるので、普段の仕事でも大切なことだと感じました。

Q,普段の仕事で多くの種類の工具を使用すると思いますが、メカチャレに参加してみて「欲しいな」と思った工具はありますか？

A,普段の仕事では絶対に使わないですけど、100万円以上するセンターロックを締めるインパクトを買って飾っておきたいです。

秋田日産自動車販売株式会社

高橋 寿彰さん

(栃木校 整備科23期卒業生)



Q,今回日産メカニックチャレンジに参加して印象に残ったことは何ですか？

A, 私たちがいつも対応させてもらっている市販車とは違って、レース車両は本当にひとつひとつ繊細なものが多く、整備士とレースメカニックは似ているようで全然違う職業なんだなと感じました。

Q, 普段の仕事で多くの種類の工具を使用すると思いますが、メカチャレに参加してみて「欲しいな」と思った工具はありますか？

A, タイヤのエアバルブのムシをつけるときに、決められたトルクが設定されている工具があって締め付けるのですが、それが市販車を整備するときであれば作業ミスも減ると思うので欲しいなと思いました。

【学生インタビュー】

青山 怜平 （学生総リーダー）

一級自動車整備科 3年生



Q,今回の日産メカニックチャレンジで1番印象に残ったことは何ですか？

A,今回学生リーダーを任せられ、みんなを動かすということを大事にしました。今までは受けた指示をどんどんこなしていくように動いていましたが、今回はみんなに支持を出す側になったことで、みんなが動いているのに自分が指示を出していて動けないというところに物足りなさを感じながらも、自分の役割の重要性に気が付くことができたことが今回のメカチャレで印象に残りました。



ブラギーテュ・マティーシャ

(ホスピエリア担当学生)

国際自動車整備科 1年生



Q, 今回の日産メカニックチャレンジで1番印象に残ったことは何ですか？

A, 今回のメカチャレで1番印象に残ったことはグループで協力して作業したことです。この3日間グループのみんながとても優しくサポートしてくれました。僕にもわかりやすい日本語で説明してくれてとてもありがたかったです。みんなで力を合わせて最後までやり遂げたことがとてもいい思い出になりました。



【広報活動を振り返って】

広報リーダー 一級自動車整備科 4年 小野寺 紀

今回の菅生戦の広報班は経験者の学生2人、初参加の学生2人というメンバーで参加しました。私は初参加の2人に広報活動を楽しんでもらいたいと目標を考え、監督やドライバーへのインタビュー、ピット内やグリッドウォーク、ピットウォークでの撮影、ベストカーさんの講義や愛車紹介など、広報班でないとできない経験をたくさん体験してもらいました。その結果、2人共現地でとても楽しそうに活動しており、1番の目標であった初参加の学生に広報活動を楽しんでもらうという目標が達成できたと感じました。次回の活動では今回出た反省点を活かし、今回以上にチームワークを高めて活動できるようにしていきたいです。

今回の活動でご協力いただいた皆様へ心より感謝申し上げます。

(広報メンバー)

一級自動車整備科 4年生 小野寺 紀

自動車整備科 2年生 青田 倫空

自動車整備科 1年生 出川 貴久

自動車整備科 1年生 齋藤 歩輝

